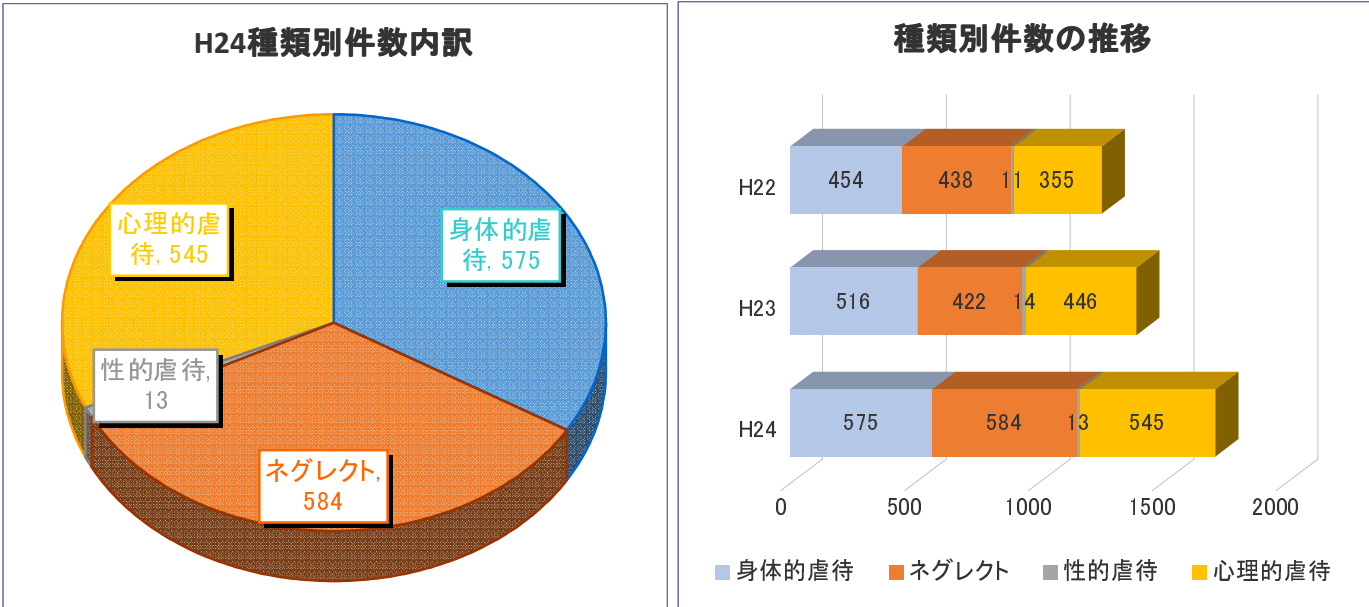
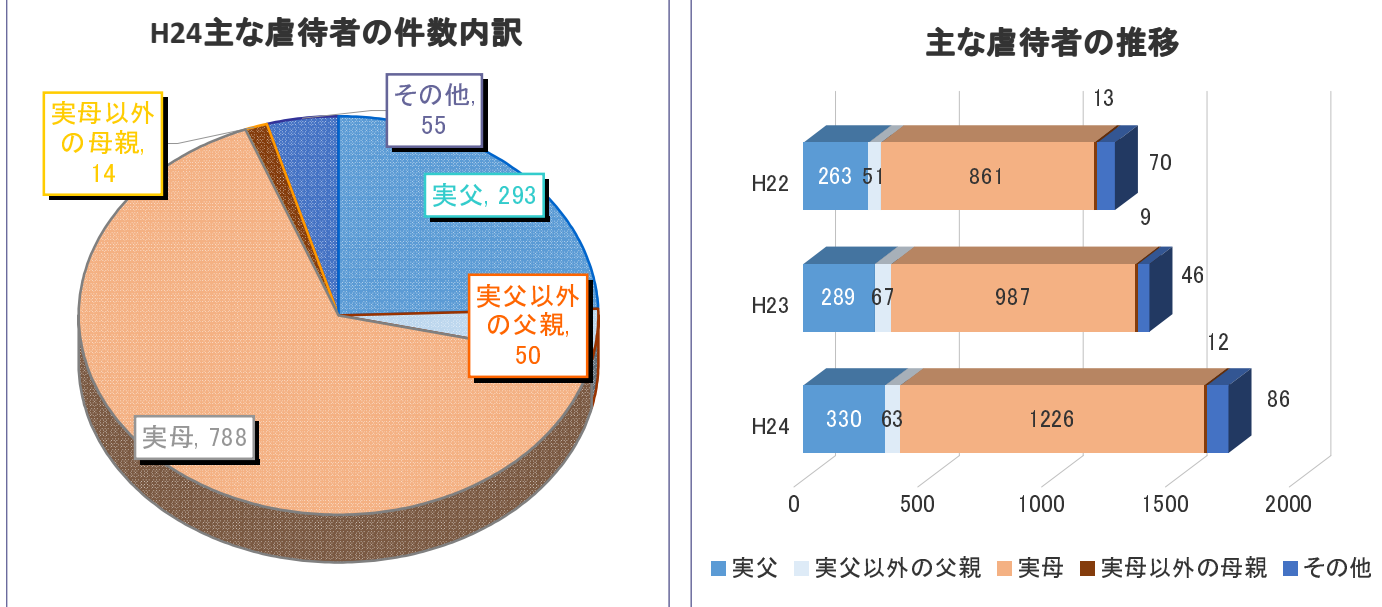


虐待の種類



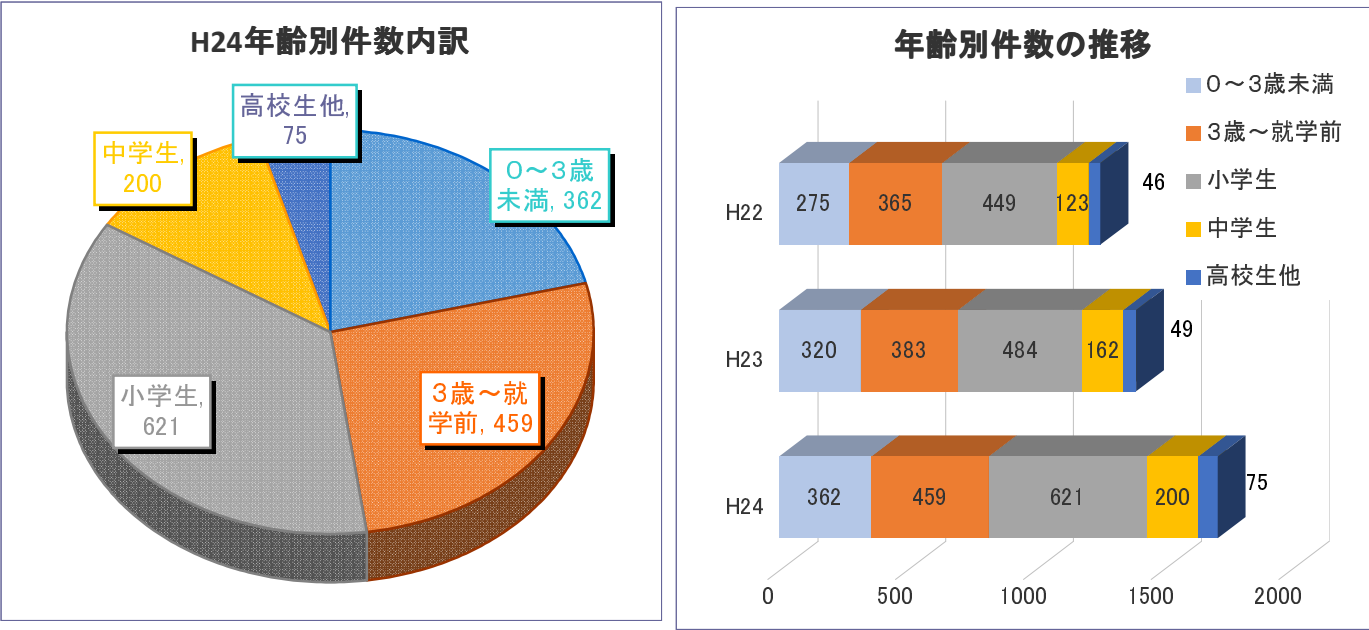
「ネグレクト」が最も多く、次いで「身体的虐待」「心理的虐待」の順に多い。「ネグレクト」は前年度比162件増(38.4%増)と最も大きな増加率を示しており、次いで「心理的虐待」が99件増(22.2%増)となっている。

主な虐待者



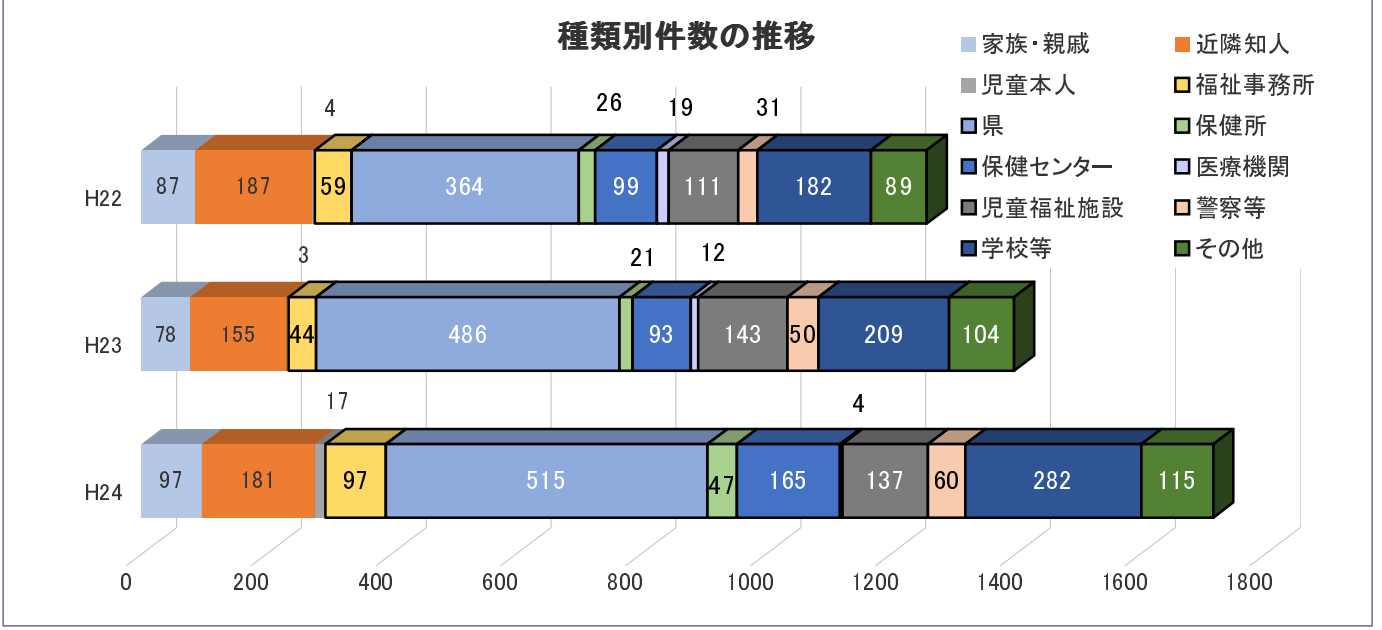
「実母」が全体の7割近くを占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の9割を超えている。

被虐待児の年齢



全体の半数近くが、就学前の児童だが、「小学生」(28.3%増)「中学生」(23.5%増)の増加が目立つ。「高校生」は全体に占める割合は少ないものの、前年度比26件増(53.1%増)と急激に増えている。

虐待通告の経路



関係機関からの通告が多く、保健センター(72件・77.4%増)、学校等(73件・34.9%増)の増加が目立つ。件数としては、県からの通告が515件で一番多く、全体の30%程度を示している。